

科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会
(第23期第3回) 議事要旨

1. 日 時 平成27年4月9日(木) 12:00~13:30
2. 場 所 日本学術会議 5階 5-C会議室(1)
3. 出席者 小松 久男委員長、那須 民江副委員長、須藤 靖副委員長、山川 充夫幹事
佐藤 岩夫委員、清木 元治委員、嶋田 透委員、向井 千秋委員、高橋 桂子
委員、萩原 一郎委員、渡辺 美代子委員、渡辺 芳人委員、柴田 徳思委員、
笠 潤平委員
日本学術会議事務局企画課：吉住課長、坂上、須賀、森
審議第二担当：松宮、熊谷
日本学術協力財団：南、末次

【配布資料】

- 資料1 科学者委員会・科学と社会委員会合同第3回広報・科学力増進分科会出席者
一覧
- 資料2 科学者委員会・科学と社会委員会合同第2回広報・科学力増進分科会議事要
旨(案)
- 資料3 『学術の動向』平成27年4月号以降の特集等掲載記事一覧
- 資料4 現在寄せられている『学術の動向』特集記事等の企画案等
- 資料5 『学術の動向』の投稿のお願い
- 資料6 意思の表出に係る記者発表用要旨(参考例：(回答)「科学研究における健全
性の向上について」)
- 資料7-1 「サイエンスカフェ」開催の流れ
- 資料7-2 「サイエンスカフェ」今後の予定
- 資料7-3 「サイエンスカフェ」開催実績(平成25~26年度)
- 資料7-4 「サイエンスカフェ(3/27)」関連資料
- 資料8 「サイエンスアゴラ2015」—共催依頼—

【参 考】

- 参考1 科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会委員会名簿
- 参考2 日本学術会議関連イベント スケジュール(H27.1~)
- 参考3 第23期日本学術会議パンフレット(日本語版)
- 参考4 第22期日本学術会議リーフレット

議 事

- (1) 前回議事要旨案の確認
特段の修正意見が出なかったため、前回の議事要旨を確定することとした。
- (2) 『学術の動向』の編集・企画について
 - ① 特集のテーマ(予定)について審議し、前回仮決定していた平成27年9月号ま

での提出されたテーマの各企画案について了承した。また、平成28年2月号までのテーマについて仮決定し、既に企画案の提出を受けているテーマを除き企画案の提出を求めることとした。なお、前回仮決定していた10月号の特集1『ナノ素材とナノ計測が拓くイノベーション』については、執筆を依頼した先生から辞退したい旨の連絡があったため、別のテーマに替えることとした。

平成28年2月号までのテーマ（予定を含む）は下記のとおり。

（平成27年10月号）

- ・特集1：『福島原発事故による放射能汚染と森林・木材』
- ・特集2：『神話世界を地形地質学的視点で語る新しい文理融合型の地域資源の創生』

（11月号）

- ・特集1：『ノーベル物理学賞と国際光年』
- ・特集2：『イノベーションの歴史に学ぶアーカイブ構築と国際情報発信の意義・重要性』

（12月号）

- ・特集1：『科学研究における健全性の向上』
- ・特集2：『グローバル化する中での国際報道と公共放送の役割』

（平成28年1月号）

- ・特集1：『日本における再生可能エネルギーの利用拡大に向けて』
- ・特集2：未定

（2月号）

- ・特集1：『分野横断型農学の新展開に向けてー物理学・数学の視点とその重要性』
- ・特集2：『防災・減災に関する国際研究のための東京会議ー災害リスクの軽減と持続可能な開発を統合した新たな科学技術の構築へ向け』

② 編集後記の担当について、次のように決定した。

（平成27年11月号） 向井委員

（同年12月号） 高橋委員

（平成28年1月号） 柴田委員

（同年2月号） 嶋田委員

③ その他

・小松委員長から、資料5及び資料6について説明があり、『学術の動向』を科学者コミュニティの開かれたフォーラムとするため、会員・連携会員に対し投稿を依頼する文書を『学術の動向』の送付の際に同封して呼びかけるとともに、日本学術会議の活動をより一層広めるため、提言や報告など日本学術会議の意志の表出を行う際に作成している既存の「記者発表用要旨」を活用し『学術の動向』や日本学

術会議HPに掲載することとした。

これらについては、第212回幹事会で趣旨を説明し了解を得たうえで、実施することとした。

(3) 平成27年度「サイエンスカフェ」について

- ・5月22日開催予定のサイエンスカフェの開催告知案について意見交換がされ、継続してメールにて委員間で検討し、告知案について合意を得ることとした。
- ・3月27日開催のサイエンスカフェについて、須藤副委員長及び柴田委員から報告された。
- ・「サイエンスカフェ」（本分科会でテーマを決定し定期的に行うサイエンスカフェ）の今後の開催方法について意見交換がされ、確認された事項は以下のとおり。
 - － 一定例の「サイエンスカフェ」については、文部科学省と日本学術会議との共催を原則とする。
 - － 「サイエンスカフェ」開催までの手続の流れとしては、クリティカルなテーマも排除せず取り上げるという「サイエンスカフェ」の使命を踏まえつつ、各回の「サイエンスカフェ」のテーマ設定については、会合あるいはメールにより分科会委員間で十分検討し、分科会の合意が得られたテーマを共催予定団体に開催予定日の1ヶ月前を目途に提示する。テーマを提示した結果、共催予定団体が共催することができないと判断した場合は、その共催予定団体は共催から外れることとし、当該の「サイエンスカフェ」の開催方法については、分科会で検討して決定する。

(4) 「サイエンスアゴラ 2015」について

渡辺（美）委員から、次のような説明があった。

- ・ 日本学術会議には共催していただきたい。
- ・ 共催ということで、会長に開幕セッションのご登壇・ご挨拶をお願いしたい。
- ・ 昨年は日本学術会議の分科会等から3つ企画を出展しているので、今回もシンポジウム・ワークショップ等の出展をお願いしたい。
- ・ 6月中に企画案を須藤副委員長から渡辺（美）委員にメール等で送付することとなった。

(5) その他

以上